

目的

那珂川のアユ資源を持続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行う必要がある。そこで今年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況に関する情報を収集した。

材料および方法

**友釣りによる漁獲状況** 栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員4漁協に対し、調査票150枚を前年度の賦課金納入者数の割合に応じて配布した。各漁協がそれぞれ選定した調査員に対し、2019年6月1日の釣り解禁日から11月30日までの間、釣行日の釣獲地区（本流7地区および4支流の計11区域；図1）および釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を0として扱った。なお、回収率は60.7%であった。

**投網による漁獲状況** 釣りと同様の方法で調査票50枚を配布し、漁獲重量の調査を行った（投網は7月10日から区間毎に順次解禁される）。なお、回収率は68.0%であった。

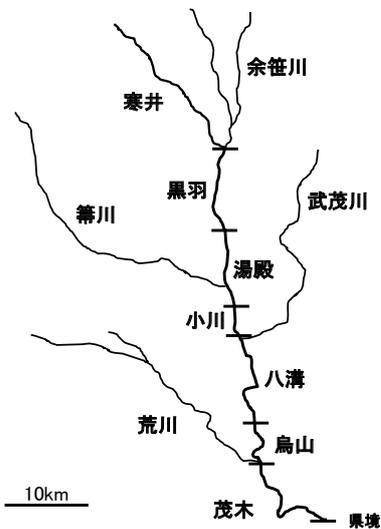


図1 那珂川における釣獲地区の区分

結果および考察

**釣れ具合・獲れ具合** 漁期を通じた釣れ具合は8.3尾/人/日で、平年値（1998年～2018年までの平均値）よりも1.2尾減少していた（図2）。解禁日の釣れ具合は9.8尾/人/日で平年（9.5尾/人/日）並みであったが、各時期の釣れ具合は漁期を通じて悪かった（図3）。また、解禁日における地区別釣れ具合を比較すると、黒

羽、余笹川、箒川、武茂川及び荒川は平均を上回る釣れ具合であったのに対し、湯殿、小川及び八溝では平均を大きく下回る釣れ具合となった（図4）。漁期を通して見ても、2019年は地区によるばらつきが大きい結果となった（図5）。投網による獲れ具合では、漁期全体の一日の獲れ具合は一人当たり2.9kgで、前年（2.2kg/人/日）よりも多く、平年並み（2.8kg/人/日）だった。

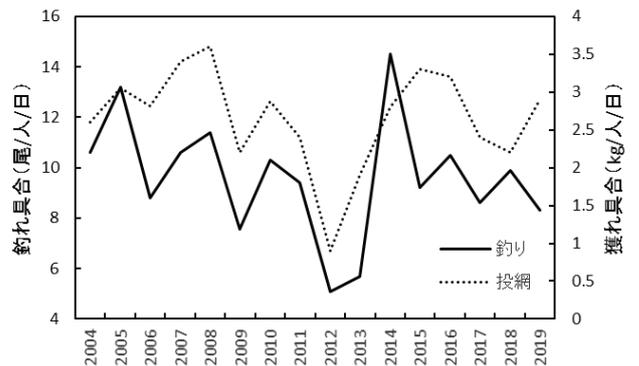


図2 釣れ具合および獲れ具合の推移

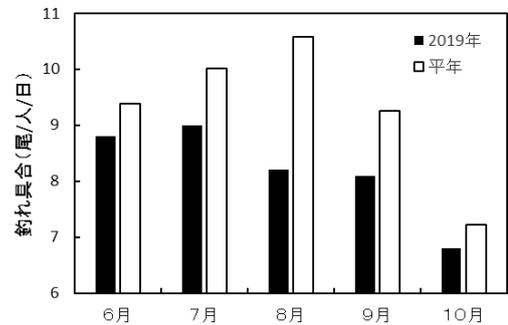


図3 釣れ具合の月別の推移

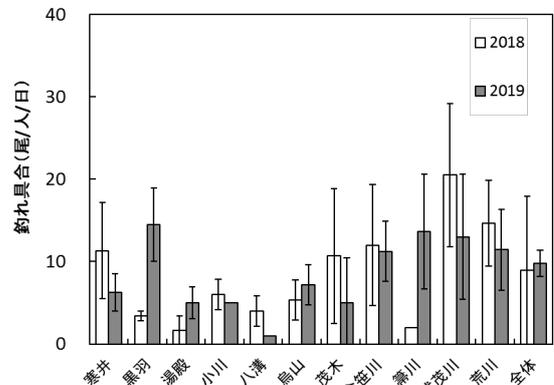


図4 地区別の釣れ具合（解禁日）

エラーバーは標準偏差を示す

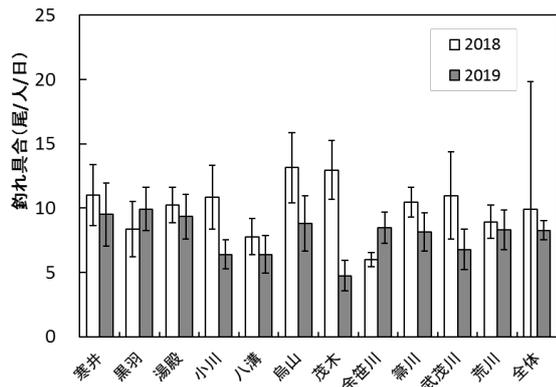


図5 地区別の釣れ具合（漁期全体）

エラーバーは標準偏差を示す

**出漁日数** 釣りの出漁日数は 15.4 日/人で、前年（13.5 日/人）の 114.1%，平年値（20.0 日/人）の 77.0% となった（図 6）。

一方、投網の出漁日数は 8.6 日/人で、前年（12.0 日/人）から大きく減少し、平年値（11.5 日/人）も下回った（図 6）。

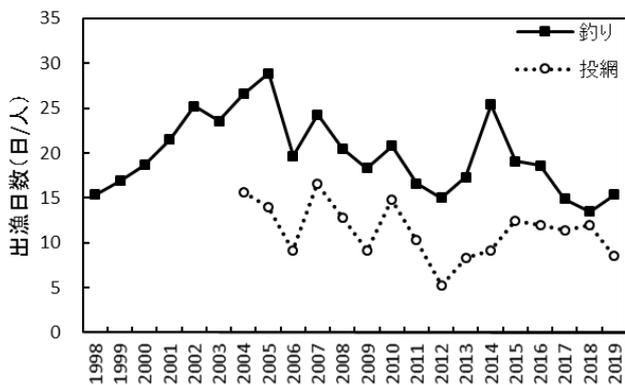


図6 釣りおよび投網の出漁日数の推移

**釣獲尾数・漁獲量** 釣りによる漁獲量は 126.2 t で前年（132.5 t）から減少した（図 7）。地区別では、黒羽地区が最も多く、黒羽、余笹川の 2 地区で昨年を上回ったが、その他の地区では、前年よりも漁獲量が減少していた（図 8）。

投網による漁獲量は 41.6 t で、前年（40.2 t）の 103.5% だった（図 7）。地区別では、小川、茂木及び箒川では前年値を上回った（図 9）。

**出漁者数** 釣りの出漁者数は 13.9 万人で前年（13.4 万人）の 103.7% に微増した（図 10）。

投網の出漁者数は 1.5 万人で前年（1.9 万人）の 78.9% に減少した（図 10）。

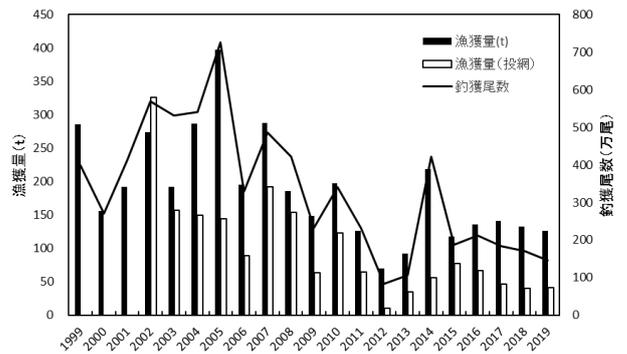


図7 釣り・投網による漁獲量および釣獲尾数の推移

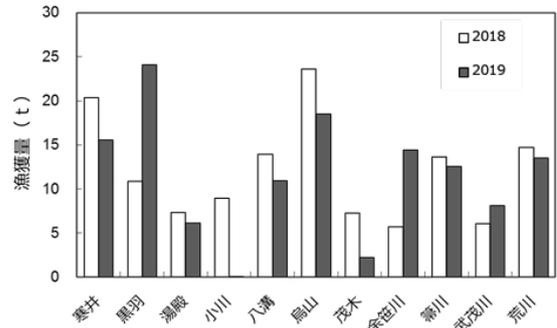


図8 地区別の漁獲量（釣り）

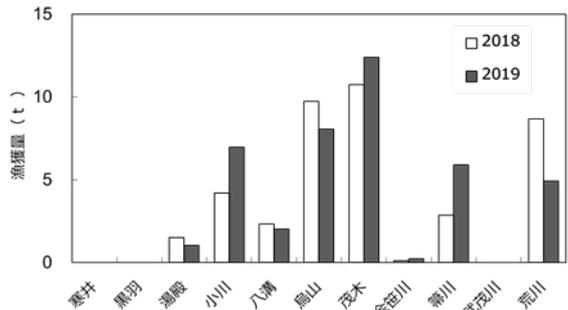


図9 地区別の漁獲量（投網）

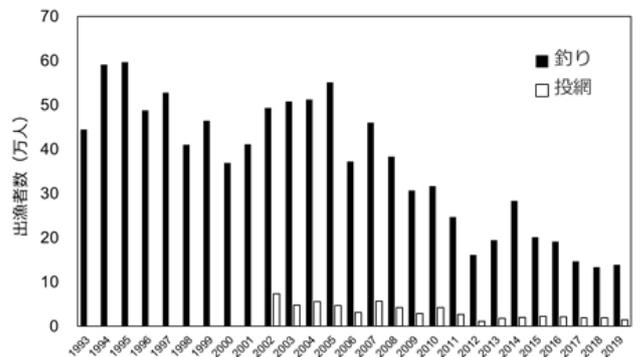


図10 釣りおよび投網出漁者数の推移

（指導環境室）